

「第 94 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 4 年 7 月 21 日（木） 15 時 15 分
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

ただいまより、第 94 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を始めます。
本日も感染症の専門家の先生方にご出席をいただいております。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長の猪口先生。同じく戦略ボードのメンバーで、国立国際医療研究センター国際感染症センター長の大曲先生。

東京 i CDC からは、所長の賀来先生。東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長の西田先生。

そして医療体制戦略監の上田先生にご出席をいただいております。よろしく願いいたします。

また、8 名の方につきましては、Web での参加となっております。

それでは早速ですけれども、「感染状況・医療提供体制の分析」のうち、「感染状況」について、大曲先生お願いいたします。

【大曲先生】

それではご報告をいたします。

感染の状況でございしますが、色は「赤」としております。「大規模な感染拡大が継続している」といたしました。

新規陽性者数の 7 日間平均であります。第 6 波のピーク時に近い値となり、今回の増加比が継続しますと、これまでに経験したことのない爆発的な感染状況になります。基本的な感染防止対策を今一度再点検をして、徹底する必要がある、といたしました。

それでは詳細についてご報告をいたします。

①の新規陽性者数からであります。

7 日間平均であります。前回の 1 日当たり約 10,110 人から、今回は 1 日当たり約 16,549 人と大きく増加をしました。増加比をとりますと、約 164%でございします。

7 日間平均であります。前回の 1 日当たり約 10,110 人から大幅に増加をして、今回 1 日当たり約 16,549 人となりました。第 6 波のピーク時に近い数値であります。さらに急速に増加をし続けて、危機的な感染状況が続いているという状況です。今週の新規陽性者数ありますが、連休中の休診による検査数の減少、検査報告の遅延などの影響を受けた数値となっております。ですので、報告数の評価には注意が必要でございします。

増加比でございますが、7月20日の時点で約164%と依然として高い水準で推移をしております。この増加比164%が継続をしますと、1週間後の7月27日の予測値は、1.64倍の1日当たり27,140人と、第6波のピークを大きく超えることとなります。これまでに経験したことのない爆発的な感染状況になります。

小中学生の感染が拡大をしています。保護者等で就業制限を受ける者が多数発生しています。医療提供体制が十分機能しないことも含めて、社会機能の低下を余儀なくされます。家庭や日常生活において、医療従事者、エッセンシャルワーカーをはじめ、誰もが感染者、あるいは濃厚接触者となる可能性があることを意識し、自ら身を守る行動を徹底する必要があります。

自分、そして家族が感染者や濃厚接触者となった場合を想定して、今から生活必需品などの最低限の準備をしておくことを都民に呼びかける必要があります。

東京都健康安全研究センターにおける変異株PCRの結果であります。オミクロン株の亜系統として、BA.2、BA.4、BA.5、そしてBA.2.12.1は、それぞれの系統の数値ですけれども、22.9%、1.1%、74.5%、1.4%検出をされております。このように、BA.5への置き換わりが急速に進んでおります。また、ゲノム解析によって、BA.2系統の亜系統「BA.2.75系統」が2例検出されております。

職場や教室など、人の集まる屋内では、エアコンの使用中でも換気を励行し、3密の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを場面に応じて適切に着用すること、手洗いなどの手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒など、基本的な感染防止対策を今一度再点検をして、徹底することによって、新規陽性者数の増加をできる限り抑制していく必要がございます。

熱中症防止の観点から、屋外では一律にマスクを着用する必要はないものの、人との距離を2メートル以上確保できず、会話をするような場合には、マスクの着用が推奨されます。

東京都のワクチンの状況でございます。東京都の3回目のワクチンの接種率でございますが、全人口では60.8%、12歳以上では67.1%、65歳以上では88.6%となりました。感染の拡大のスピードが急激に加速していることを踏まえまして、若い世代を含めて幅広い世代に対して、3回目のワクチンの接種を推進するとともに、高齢者施設入所者など、高齢者等への4回目のワクチンの接種を急ぐ必要があります。

重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人をできる限り守るためにも、新たに4回目接種の対象となるとされた医療従事者、高齢者施設職員への迅速な接種の準備を進める必要がございます。

次、①-2に移って参ります。

世代別の構成比でございます。新規の陽性者に占める割合であります。20代が21.0%と最も高く、次いで30代が16.7%となりました。30代以下の割合が61.8%と高い値で推移をしております。保育所・幼稚園、学校生活及び職場における感染防止対策の徹底が求められます。

あらゆる世代が感染によるリスクを有しているという意識を、都民一人ひとりがより一

層強く持つよう、改めて啓発する必要があるがございます。

次に①-3でございます。

新規陽性者に占める65歳以上の高齢者数であります。前週の4,009人から、今週は8,720人となり、その割合は7.7%となりました。

7日間平均を見ますと、前回の1日当たり約736人から、今回は1日当たり1,342人と大きく増加をしております。

このように7日間平均が、前回から約1.8倍に増加をしています。高齢者は重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要でございます。

また、医療機関での入院患者、そして高齢者施設等における入所者も基本的な感染防止対策を徹底・継続する必要があるがございます。

次、①-5でございます。

感染経路が明らかであった新規陽性者の感染経路別の割合でございます。同居する人からの感染が65.8%と最も多かったという状況でございます。次いで施設及び通所介護の施設での感染が16.4%、職場での感染が7.9%、会食での感染が3.5%でございました。

1月3日から7月10日までに、都に報告があった新規の集団発生事例であります。高齢者施設や保育所等の福祉施設が2,364件、幼稚園や学校等の学校・教育施設、これが779件、医療機関は265件でございました。特に学生寮での感染の事例が見られております。

新規陽性者数が急増しておりまして、旅行などを契機とした感染も見られています。少しでも体調に異変を感じる場合には、外出や人との接触、登園・登校・出勤を控え、そして発熱や咳、痰、咽頭痛、倦怠感等の症状がある場合には、医療機関を受診するよう周知する必要があります。

また、会食による感染が明らかだった新規陽性者数であります。前週の751人から、今回は1,121人と大きく増加をしています。今週は、職場の懇親会等での感染事例が多数報告されています。会食は換気のよい環境で、できる限り短時間、少人数として、会話時はマスクを着用し、大声での会話は控えること、これを繰り返し啓発する必要があるがございます。

また、今週も10代以下では施設で感染した割合が高く、10歳未満では32.9%、10代では33.9%と、高い値で推移をしております。感染の拡大によって、同居する保護者が欠勤せざるを得ないことも、社会機能に影響を与えます。保育所・幼稚園そして学校での感染拡大に警戒が必要でございます。

職場であります。職場での感染を防止するために、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇の取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、換気の励行、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められます。

次、①-6に移ります。

今週の新規陽性者112,940人のうち、無症状の陽性者が9,293人、割合は前週の8.5%か

ら今回は 8.2%となりました。

このように、今週も、症状が出てから検査を受けて、そして陽性と判明した人の割合が高かったという状況でございます。

症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意をして、日常生活を過ごす必要がございます。

次、①-7でございます。

今週の保健所別の届出数であります。多い順に見ますと、世田谷で 8,706 人と最も多く、次いで多摩府中が 7,348 人、大田区が 6,210 人、江戸川が 5,575 人、江東区が 5,538 人ございました。

保健所では、オミクロン株の特性を踏まえて、積極的疫学調査、そして療養先の選定など、業務の重点化を図っていく必要がございます。

次、①-8であります。

地図で状況を見て参ります。今週は島しょを除く都内の 30 の保健所で、500 人を超える新規の陽性者数が報告され、極めて高い水準で推移をしております。濃度別で色分けしておりますが、紫一色でございます。

次、①-9に移ります。

これを人口 10 万人当たりで見た地図がこちらでございます。こちらも全部紫というところで、区部から都内の全域に感染が拡大をしております。

療養者に対する感染の判明から療養の終了までの保健所の一連の業務を、都と保健所が協働し補完し合いながら、一体的に進めていく必要がございます。

次、②です。

#7119 における発熱等の相談件数でございますが、この 7 日間平均は、前回の 115.1 件から、今回は 1 日当たり 201.3 件と大きく増加をしております。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均でございますが、前回の 1 日当たり約 5,410 件から、今回は 1 日当たり約 11,198 件に倍増をしております。

#7119 における発熱等相談件数及び都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均は、このように大きく増加をし、都は回線数を増強して、発熱相談センターの体制強化を図っています。

次は③であります。

新規陽性者における接触歴等不明者数と増加比であります。

まず、この 7 日間平均でございますが、前回の 1 日当たり約 6,978 人から、今回は 1 日当たり約 11,919 人と大きく増加しました。

また、接触歴等不明者数の合計でございますが、今週は 81,017 人でありまして、年代別に見ますと、20 代が 19,582 人と最も多く、次いで 10 代以下が 16,951 人、30 代が 14,146 人の順でございました。

このように、接触歴等不明者数でございますが、5 週連続で増加をしております。7 月 20

日の時点で、1日当たり約11,919人と、過去の最高値を上回っております。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が必要でございます。

次、③-2です。

この数値の増加比でございますが、約171%でございます。

接触歴等不明者数の増加比は、前回の約237%に続いて、今回も約171%と、非常に高い値で推移をしています。急激に感染が拡大をしております。

感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐために、基本的な感染防止対策を引き続き徹底することが重要であります。

次、③-3でございます。

新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合であります。今回は、前週の約68%から約72%となっております。

年代別の接触歴等不明者の割合であります。20代が約83%と高い値となっております。すべての世代で接触歴等不明者の割合が50%を超えています。特に20代を見ますと約83%、30代では約75%と、行動が活発な世代で高い割合となっております。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続いて「医療提供体制」について、猪口先生お願いいたします。

【猪口先生】

では、医療提供体制についてコメントいたします。

総括コメントの色は「赤」、「医療体制がひっ迫している」と、段階を上げました。

検査の陽性率は急速に上昇し、過去最高値を上回りました。診療・検査医療機関に検査・受診の相談が集中するなど、検査が受けにくくなっている状況です。東京ルールの適用件数が大きく増加するなど、救急医療体制への影響が生じております。

では、詳細コメントに移ります。

まず、オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析です。

(1)新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率は、7月13日時点の31.7%から、7月20日時点で43.5%に上昇いたしました。

(2)オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、10.7%から14.5%、

(3)入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合は、8.3%から8.5%、

(4)救命救急センター内の重症者用病床使用率は、76.0%から78.3%となっております。

(5)救急医療の東京ルールの適用件数は、249.7件と大きく増加いたしました。

それでは、④検査の陽性率です。

7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の33.8%から42.9%に大きく上昇いたしました。

た。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の1日当たり約19,501人から約23,760人となっております。

検査の陽性率は、7月以降、急速に上昇しており、42.9%と、過去最高値、これは2月12日、本年の2月12日なんですけども、41.2%を上回りました。

新規陽性者数が急増する中、連休中の休診等の影響により、診療・検査医療機関に、検査・受診の相談が集中するなど、検査が受けにくくなっております。有症状者や濃厚接触者など、検査が必要な人が速やかに受けられるよう、検査体制の確保が必要であります。

自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合や、ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、咽頭痛、倦怠感などの症状がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センター又は診療・検査医療機関に電話相談し、特に、症状が重い場合や、急変時には速やかに医療機関を受診する必要があります。

⑤の救急医療の東京ルールの適用件数です。

東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の1日当たり132.1件から、249.7件に大きく増加いたしました。

急激な感染拡大に伴い、東京ルールの適用件数が大きく増加するなど、救急医療体制への影響が生じております。

救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は延伸しております。医療への負荷が増加し、搬送先決定までに時間を要しており、救急搬送体制にすでに支障が生じております。

⑥入院患者数です。

7月20日時点の入院患者数は、前回の2,239人から3,142人に大きく増加いたしました。

今週新たに入院した患者は、前週の1,488人から1,982人に大きく増加し、また、入院率は1.8%でありました。

7月20日時点での稼働病床数は5,673床で、稼働病床数に対する病床利用率は55.4%となっております。都は、7月12日に、感染拡大のスピードを踏まえ、軽症・中等症の病床確保レベルをレベル1、5,047床から、レベル2の6,944床へ引き上げることを各医療機関に要請いたしました。重症者用病床はレベル1、420床を維持しております。

陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者について、都内全域で約155人/日を受け入れております。

入院患者数は2週間で約2.5倍に増加いたしました。医療機関は工夫して、一般病床を、新型コロナウイルス感染症患者のために病床を転用しており、負担が大きくなっております。

入院調整本部への調整依頼件数は、7月20日時点で605件となりました。高齢者や併存症を有する者など入院調整が難航する事例が生じており、翌日に持ち越す事例も発生しております。入院調整本部では、重症度別の入院調整班や、転退院、保健所、往診などの支援班を設置し、中和抗体薬等の担当とも連携して対応しております。

⑥-2です。

入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約26%を占め、次いで70代が約19%で、60代以上の高齢者の割合は約68%と、引き続き高い値のまま推移しており、今後の動向を警戒する必要があります。

都では、高齢者施設や病院からの受入れを行う高齢者等医療支援型施設を新たに開設いたしました。今後さらに、高齢者等医療支援型施設を100床整備することとしております。

都は、受入医療機関と意見交換を実施し、MIST（東京都新型コロナウイルス感染者情報システム）の活用による情報の共有化を進めております。

⑥-3です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の87,411人から、147,795人に大きく増加いたしました。内訳は、入院患者が2,239人から3,142人、宿泊療養者が5,957人から6,306人、自宅療養者が53,466人から92,444人、入院・療養等調整中が25,749人から45,903人となっております。

療養者数が急増し、現在、都民の約100人に1人が検査陽性者として、入院、宿泊、自宅のいずれかで療養しております。全療養者に占める入院患者の割合は2%、宿泊療養者の割合は約4%、自宅療養者と入院・療養等調整中の感染者が約94%と、多数を占めております。

都は、感染拡大に対応するため、患者の重症度、緊急度、年齢等に応じ、臨時の医療施設や酸素・医療提供ステーション等を含め、病床をより重症度・緊急度の高い患者に活用することとしております。

都は、32か所、12,253室の宿泊療養施設を確保し、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て運営しております。現下の感染拡大に対応するため、稼働レベルを1から2へ移行し、32か所、約12,000室、受入可能数8,580床で運用しております。

新規陽性者数の拡大状況に応じて、今後も増加が見込まれる自宅療養者へのフォローアップ体制を効率的に運用していく必要があります。

⑦重症患者数です。

重症患者数は前回の13人から18人となっております。また、重症患者のうち、ECMOをしている患者は1人です。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は13人、人工呼吸器から離脱した患者が4人、人工呼吸器使用中に死亡した患者が3人です。

7月20日時点で、重症患者に準ずる患者は47人で、内訳はネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が21人、人工呼吸器等による治療を要する可能性の高い患者が23人、離脱後の不安定な患者が3人です。

今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は4.5日、平均値が4.5日です。

新規陽性者数の増加に伴い、重症患者数も増加いたします。重症患者数は低い値で推移し

ているものの、増加傾向にあり、今後の推移に警戒が必要であります。

⑦-2です。

重症患者の年代別内訳は、10代が2人、20代が2人、30代が1人、40代が1人、50代が2人、60代が3人、70代が4人、80代が3人で、ほぼすべての年代に重症患者がいらっしゃいます。性別は男性14人、女性4人です。

人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合は0.04%ですが、年代別内訳では、40代以下が0.01%、50代が0.05%、60代以上が0.29%です。

今週報告された死亡者数は11人。50代が1人、70代が3人、80代5人、90代2人で、7月20日時点の累計の死亡者数は4,602人となりました。

⑦-3。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は13人であり、新規重症患者数の7日間平均は、前回の1日当たり2.1人から、7月20日時点で2.1人と、同様の数字となっております。

私の方からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

分析シート内容につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、「保健医療提供体制のさらなる強化」について、福祉保健局長お願いいたします。

【福祉保健局長】

はい。私からは、感染拡大を受けた保健・医療提供体制のさらなる強化についてご報告をいたします。

まず、医療機関の休診が多くなる土日の診療検査体制の強化についてです。

お盆期間中の診療体制を強化するため、すでにお盆期間の診療体制にかかる費用を支援していくこととしておりますが、これに加えて、土日の診療体制を確保するため、医療機関の実績に応じて協力金を支払うことといたします。早速、明後日23日土曜日から開始をいたします。

次に、立川市高松の感染拡大時療養施設の運用開始についてです。

感染拡大時療養施設は、現在、立飛279床で患者の受け入れを行っておりますが、現在の感染状況を踏まえて、ワクチン会場として利用していた高松でも、患者の受け入れを開始します。

まず、7月27日から65床で運用を開始し、8月5日には全130床を稼働させ、軽症や無症状の陽性者で、基礎疾患を有する同居家族がいるなど、隔離が必要な方などを受け入れて参ります。

次にワクチンについてです。

先日、国から医療従事者等の4回目接種対象者を拡大するとの発表がありました。

これを受けて、都の大規模接種会場において、医療従事者や高齢者施設従事者等に対する4回目接種を開始します。

明日午後、国において決定される予定となっております。都としては、一刻も早く医療従事者等に対して接種が進むよう準備を進めまして、23日土曜日から、都庁南展望室、行幸地下、立川南の3会場で接種を開始いたします。

医療従事者等へのスピーディーな接種のため、都の大規模接種会場では、接種券なしでも接種できることといたします。また、予約なしでも接種することができます。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまのご報告について、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは次に、iCDCからの報告に移ります。

まず、「都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」につきまして、西田先生お願いいたします。

【西田先生】

はい。それでは、直近の夜間滞留人口の状況につきまして報告を申し上げます。

次のスライドをお願いします。

初めに、分析の要点を申し上げます。

レジャー目的の夜間滞留人口は、新規感染者数の急増に伴い、直近3週間で18.5%も減少しております。多くの人々が自主的にハイリスクな行動を控えている様子がうかがえます。

しかし、再びここでハイリスクな行動をとる人々が増えますと、感染状況がさらに悪化する可能性があります。マスクなしでの大人数、長時間の会食など、ハイリスクな行動をできる限り避けていただくことが重要と思われれます。

それでは個別のデータを見ながら補足の説明をさせていただきます。

レジャー目的の夜間滞留人口は、新規感染者数の急増に伴い、直近3週間で18.5%減少しております。

この間、昼間の滞留人口も減少しておりますが、夜間滞留人口の減少がより顕著となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらは、新型コロナ流行前の2019年度の夜間滞留人口の水準と、流行後の2020年以

降の水準と比較したグラフです。

赤色のライン右端が、2022年直近の推移を示しておりますが、こちらを見ますと、コロナ前の同時期水準に比べると、約半分程度の水準で推移していることがわかります。

また緊急事態宣言中であった昨年同時期に比べますと、まだ若干高い水準にありますが、一昨年の同時期の水準と比べるとほぼ同じところまで減少してきております。

次のスライドをお願いします。

こちらは20時から22時、22時から24時の夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示したグラフです。

新規感染者数が急激に増加し始めた3週ほど前から、夜間滞留人口が顕著に減少に転じております。

こうした人々の行動変容の影響によるところが少なくないと思われませんが、その翌週から実効再生産数の急激な上昇も、一旦頭打ちしているように見えます。

ただし直近、検査が受けにくくなっていることが、実効再生産数の、見かけ上の推移に影響を与えている可能性もありますので、その推移については楽観視せず、慎重に見極めていくことが重要と思われれます。

次のスライドをお願いいたします。

こちら島根県の夜間滞留人口と実効再生産数の推移を示したグラフです。島根県でもこの間夜間滞留人口が減少し、その後実効再生産数の減少傾向が続いております。

次のスライドをお願いします。

一方、こちら沖縄県の状況ですが、医療も逼迫し始めている状況ですが、夜間滞留人口の減少が見られず、実効再生産数の上昇が続いています。

こうした事例を踏まえますと、感染状況のさらなる悪化を食い止めていくためには、ハイリスクな行動をできるだけ控えるなど、人々の行動変容が重要なポイントとなってきているということが示唆されます。

次のスライドをお願いします。

こちらは昨晩までの都内の繁華街滞留人口の日別データとなります。

右端の直近のところをご覧くださいますと、夜間滞留人口の減少傾向が、今のところは維持されているということがわかります。

ただ、再びここでハイリスクな行動をとる人々が増えますと、感染状況がさらに悪化する可能性が十分にあります。引き続き、マスクなしでの大人数、長時間の会食など、ハイリスクな行動をできる限り避けていただくことが重要と思われれます。

私の報告は以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまのご説明にご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、「総括コメント」及び「変異株 PCR 検査」につきまして、賀来所長お願いいたします。

【賀来所長】

はい。まず、分析報告、保健医療提供体制のさらなる強化、繁華街滞留人口のモニタリングについてコメントさせていただき、続いて変異株について報告をさせていただきます。

まず、分析報告へのコメントです。

ただいま、大曲先生、猪口先生より感染状況・医療提供体制についてのご発言がございました。

感染状況については、新規陽性者数の7日間平均は、第6波のピーク時に近い値となり、今回の増加比が継続すると、これまでに経験したことの無い爆発的な感染状況となるとのコメントがあり、また、医療提供体制については、検査陽性率が過去最高値を上回るとともに、検査及び受診相談が集中し、検査が受けにくくなっており、あわせて救急医療体制への影響が生じているとのコメントがありました。

感染の急拡大に対しては、3回目及び4回目のワクチン接種の推進、加速に加え、マスク着用や手洗い、換気などの基本的な感染症対策の再度の見直しと徹底が必要であるとともに、軽症・中等症、さらに重症者に対し、迅速に対応できる療養体制並びに医療提供体制の充実を図っていく必要があるかと思われまます。

続きまして、保健・医療提供体制のさらなる強化へのコメントです。

東京都から、感染拡大を受けた保健医療提供体制のさらなる強化についてのご報告がありました。

東京都では、体調の悪い方が医療を受けられるよう、土日の診療体制における発熱外来の強化、療養施設の増設などに取り組まれています。都民の命を守るために、万全の医療提供体制の確保をぜひ進めていただきたいと思います。

また、オミクロン株に対応するには、ワクチン接種は2回では不十分であることから、3回目接種の加速化に加え、高齢者や基礎疾患のある方、新たに対象となった医療従事者等への4回目接種を迅速に進めることにより、感染の再拡大に万全の備えを講じていくことが大変に重要であると考えます。

次は、繁華街滞留人口モニタリングへのコメントです。

西田先生からは、都内繁華街滞留人口のモニタリングについてご説明がありました。夜間滞留人口は、新規感染者数の急増に伴い、直近3週間で減少しており、多くの人々が自主的にハイリスクな行動を控えてくださっているとのこと。引き続き、感染リスクの高い行動をできる限り避けることが、重要かと考えます。

続きまして変異株について報告をさせていただきます。

こちらのスライドは、過去1年間のゲノム解析結果の推移です。現時点での解析結果で

は7月における、「BA.2系統」の占める割合が36.1%、「BA.2.12.1系統」が4.0%、「BA.4系統」が3.0%、「BA.5系統」が56.5%となっております。

また、都内で初めて、「BA.2.75系統」が確認されまして、0.5%となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは先ほどのグラフの内訳です。ゲノム解析の結果、都内ではこれまで「BA.2.12.1系統」が251件、「BA.4系統」が78件、「BA.5系統」が1,265件、「BA.1系統とBA.2系統の組換え体」が14件確認されました。

また、先ほどご説明いたしましたとおり、「BA.2.75系統」が2件確認されております。

次の資料をお願いします。

こちらは、先ほどご報告しました、都内で新たに確認された、「BA.2系統」の亜系統である「BA.2.75系統」の追加情報です

概要をご覧ください。

「BA.2.75系統」は、令和4年6月2日に、インドで最初に検出されております。

インドでは、「BA.5系統」の割合が上昇しつつありましたが、6月以降、「BA.2.75系統」の割合が上昇しております。

ただし、「BA.2.75系統」の、このような増加は、インドでのみ観察されております。

現在、WHOは、「BA.2.75系統」を、「懸念される変異株における監視下の系統」に位置付けております。

7月7日時点で、国際的なデータベースには、64件の報告があり、うち、48件はインドからの報告となっております。その他、英国、ドイツ、米国などからも報告がされております。

日本においては、7月8日時点で、空港検疫で1件確認されている他、報道ベースでは、少なくとも3件の検出事例が確認されております。

特徴をご覧ください。

「BA.2.75系統」の感染力や重症化リスクについては、現時点では明らかになっておりません。また、ワクチン接種による中和抗体からの逃避への影響が示唆されています。

東京iCDCのゲノム解析チームでは、引き続き、ゲノム解析等により、新たな変異株の動向を監視してまいります。

スライド次をお願いします。

こちらは、BA.2系統のほか、BA.2.12.1系統やBA.4系統、BA.5系統にも対応した、東京都健康安全研究センターにおける、変異株PCR検査の結果です。

詳細は次のスライドでご説明します。

スライドにありますように、変異株の置き換わりが進んでおります。

BA.5系統が74.5%と増加している一方、BA.2系統が22.9%減少しております。またBA.2.12.1系統が1.4%、BA.4系統が1.1%と減少しており、BA.5系統への置き換わりが進んでおります。

スライドをお願いします。

このスライドは参考にお示ししています。

説明については省略をいたします。

さて先ほどから述べております、BA.5 ですが、感染力が非常に強いとされています。これまで通り、この BA.5 に対しても基本的な感染防止対策が重要です。

暑い日が続きますが、熱中症に気をつけながら、混んでいる場所や会話をする場面などでは、マスクを是非とも着用してください。

また、室内の換気が悪いと、空気中に長時間ウイルスが漂っていることもあります。窓を閉めきらず、部屋の空気を入れ替えすることも感染予防に有効です。こまめに換気を行っていただきたいと思います。

私からの報告は以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

賀来所長からの説明につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは最後に、会のまとめといたしまして知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。先生方ありがとうございます。お暑いところご出席賜りまして、感謝申し上げます。

今週は医療提供体制が「赤」、そして感染状況の方は以前から「赤」ということで最高レベル、両方最高レベルになっております。

先生方から、新規陽性者数の7日間平均で見ても、第6波のピーク時に近い値で、基本的な感染防止対策を今一度再点検をして徹底する必要があること。

診療・検査医療機関に検査・受診の相談が集中する状況となっているなどコメントいただきました。

さて、今一番大切なことは、それは都民の皆さんの命を守ることに他なりません。今後さらに医療提供体制強化をして参ります。

感染拡大時療養施設の開設、そして土日の診療・検査医療機関の体制強化などにつきましては、速やかに実行に移していただきたいと思います。

そして3回目と4回目のワクチン接種でありますけれども、こちらを促進するため、あらゆる対策を講じていただきたい。

そして都民の皆様方には、「ワクチン」、「換気」、「マスク」、この3つのキーワードでしっかりと感染防止対策を実施していただくようお願いして参ります。関係局におかれましては、効果的な情報発信を行ってください。

そしてまた、一層連携を密にして取り組んでいただきたいと思います。暑いところすけ

れども、ともに頑張って参りましょう。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第94回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

なお、次回の会議日程につきましては別途お知らせをいたします。

ご出席ありがとうございました。